

令和4年度

事業計画書

建学の精神

建学の精神

人間性に支えられた高度な工業技術者を広く学術の研鑽を通じて育成する

基本理念

人を育て技術を拓く（ひらく）

教育目標

豊かな人間性の錬成とすぐれた工業技術者の育成

教育方針

- 学生の個性を伸ばすきめ細かな教育の実現
- 産業界を支える自立した実務型技術者の育成
- 国際社会で、職場で尊敬され、頼りにされる技術者の育成
（基本教科の確実な修得・コンピュータに強い技術者の育成・個性化への対応）

使命・目的

工業に関する専門の学術と一般の学芸とを教授研究し、かつ、人格の形成と陶冶を図り、もって文化の向上に寄与する

令和4年度の事業計画

I 教育分野

1. 高大接続を円滑に行うための入学者選抜試験の見直し

令和7年度からの新課程入学者選抜試験について、新課程の「情報科目」の取り扱いなど新学習指導要領に沿った出題科目や内容について検討を行い、本年度中に新課程入試の概要を取りまとめ公表します。また、本学で学べば何が出来るようになるかを高校生にアピールできる高大連携イベントなどについて検討します。

2. 数理・データサイエンス教育プログラムの推進

eスポーツ等学生が興味を持つテーマを工夫して、データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力、AIを活用し課題解決につなげる基礎力を修得するデータサイエンス教育プログラムを実施します。この教育課程の実績を基に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシーレベルについては令和4年度の認定、応用基礎レベルについては令和5年度の認定を目指します。

3. NITモノづくりデジタル人材育成の推進

デジタルデータを取り扱えるDX（デジタルトランスフォーメーション）教育設備導入を計画的に進め、実験・実習という体験を通してDX時代の設計から保全までの全体を見通せるデジタルマインドやスキルを持った実務型モノづくり人材の育成に取り組みます。

4. 教育の質保証に向けた学修成果等の可視化

学習者本位の教育を実現する観点から、学生自らが定量的に到達度を確認できる指標や学修成果の評価（アセスメント）科目の検討を行います。また学修ポートフォリオの導入に必要な評価基準（ルーブリック）の検討を行い教育の質保証の可視化を進めます。

5. アフターコロナに向けた学生支援

コロナ禍で宿泊オリエンテーションやインターンシップ等の学外での体験が少なくなりキャンパスライフを通じた人間形成が困難になっているため、既存の学友会や科学技術団体（eスポーツ・シビルエンジニアリング等）の活動を支援して活性化させます。また、平成筑豊鉄道の駅リニューアル事業のような教職員と学生とが一体となった地域貢献活動を充実し学生が社会人基礎力を養う機会を増やし、学生の満足度向上に努めるとともに休退学者の低減に取り組みます。

Ⅱ 研究・地域貢献分野

1. 地域・産学連携センターを中心とした研究活動の活性化

現在、地域・産学連携センターを中心に取り組んでいる日産自動車九州㈱、北九州高速鉄道㈱、地元建設企業等との産学連携活動を参考に、本学の教員が持つ研究シーズを地域企業とマッチングさせ研究活動を活性化させるとともに新たな外部資金獲得に努めます。

2. カーボンニュートラルに貢献する研究の推進

2050年までに二酸化炭素のネット排出量ゼロとする政府の政策目標を踏まえ、令和3年度より学内においてカーボンニュートラルに資する研究を重点項目に掲げました。令和4年度は自然エネルギー分野、省エネルギー分野、情報・ソフト分野などで本学のブランドとなる重点研究テーマを検討し、モデルプロジェクトを提案します。

3. 新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種の実施

社会医療法人陽明会及び学校法人戸早学園と連携し、新型コロナウイルスワクチンの3回目大学拠点接種に取り組み安全安心な教育環境を整えるとともに、地域の教育関係者、社会機能維持者(エッセンシャルワーカー)など地域住民のワクチン接種に貢献します。

Ⅲ 管理・運営分野

1. PC必携化に伴う教育環境の充実

学生のノートPC必携化に対応し、PC教室の普通教室への転換を進めるとともに無線LANのアクセスポイント増強など学修環境を整えます。また、導入済みの印刷管理設備を使って学生のノートPCのデータを印刷できるサービスを開始し利便性の向上を図ります。

2. 学生・保護者へのサービス向上

既存のプラットフォーム(Microsoft365)を活用して、学生の欠席届等を電子申請(ワークフロー)化し利便性を向上させます。また、教務システム一体型ポータルシステムに保護者アカウントを新たに設け、保護者が学生の履修状況や成績情報を常時閲覧できるようにします。

3. 危機管理マニュアルの拡充整備

危機管理に対する基本マニュアルに加え、風水害などに対する個別マニュアルを充実させ有事に備えます。また、昨年度策定した新型コロナウイルス感染症に対する事業継続計画（BCP）を不断に見直すなど、柔軟に大学の事業継続と学修機会の確保に努めます。

4. 組織力向上とブランド力強化

継続的な業務改善に取り組むとともに事務職員の能力向上を目指した計画的かつ実践的なSD、OJTに取り組み、組織力向上を図ります。また、昨年度硬式野球部の活躍により大学の知名度が飛躍的に向上したことを好機と捉え、ホームページの閲覧数などの客観データを基にして志願者増に取り組む新たな広報戦略の策定に着手します。

5. 基盤整備

- イ) 本学ホームページのフルリニューアル
- ロ) おぼせキャンパス M 棟（総合実験実習センター）改修
- ハ) 小倉キャンパス本館教室のデジタル化
- ニ) 小倉キャンパス本館照明監視システム更新
- ホ) 小倉キャンパス S 棟（大学院・地域連携センター）LED照明更新

以上